

様式3

概要報告書

2016 年度

事業種別	広域安全事業
団体名	特定非営利活動法人 全国薬物依存症者家族会連合会
事業名	薬物問題を抱える家族の会の存在を広く社会に発信できる人材育成 表題の事業目標を達成するため、薬物依存症、薬物中毒、薬物依存からの回復、薬物依存症を抱えた家族問題等に詳しい専門家（茨城ダルク施設長岩井喜代仁氏、群馬ダルク平山氏・福島氏、近藤京子氏）を講師とし、全国の家族会（19ヶ所）に派遣し講演を実施。 家族会とは、薬物依存症者を抱える家族の会で、全国に30ほどある。 家族会とは、薬物依存症とはどんなことか、薬物依存症者を回復させるにはどうしたらいいのか、家族が共依存という病にかかっていること、家族はどうしたら回復できるのか、等々家族の薬物依存症問題を、先行く仲間や専門家の助けを借りて、勉強し、実践に結び付けていく場です。 家族会の多くは、資金的に余裕がなく、薬物依存症の専門家を招いて勉強することができないが、今回日工組社会安全研究財団の助成金をいただき、そうした専門家を全国の家族会の6割以上の19ヶ所に派遣することができた。 専門家の講義により、多くの家族が、薬物依存症の知識、薬物依存症を克服する技術、家族が回復するための知識を学ぶことができた。 今回の事業により、かならず、家族会の価値を社会に発信できる人材が育ったと思います。 厚生労働省や法務省は従来とは変わって、薬物依存症は病気であることをはっきり世間に告知していくと発言しているし、薬物問題の政府予算の拡大も図っています。 又、薬物依存症問題の解決には家族の力、家族会の力が必要だと政府は認識し、政府の活動に家族会の参加を求めています。 こうした行政の変化に合わせるように、本事業を実施することができ、本事業は必ずや薬物依存症問題の解決に繋がっていくものと思います。

注)上記の報告書は、助成対象団体が作成した報告書です。(公財)日工組社会安全研究財団では、記載された事業の内容等に関するお問合せには対応できませんのでご了承ください。